



週報

Rotary
OITA JOSAI,2720



会長 石橋春明
幹事 園田哲史

国際ロータリー会長
オンラインカ・ハキーム・パバロラ
第 2720 地区ガバナー
延岡 研一
大分第 4G ガバナー補佐
植山 朋代
地区スローガン
ロータリーが〇〇をつなぐ



持続可能な
インパクトを
生み出そう

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン

「人をつなぎ、未来へ 確かなインパクトを！」

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	9 月 16 日					例会日	水曜日 12:30~13:30	編集担当	9 月	眞上 晋
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター		例会場		10 月	中村智美
	28 名	22 名	78.57%	0 名	0 名		ホームページ http://oitajosairotaryclub.com		11 月	高木昭信

事務局 〒870-0021 大分市府内町トキハ会館 4 階 TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 Eメール oitajosairo@mist.ocn.ne.jp

2026-2027		第 11 回例会		9 月 30 日		No.1641		基本的教育と識字率向上月間	
◆本日のプログラム						職業奉仕 3 分スピーチ			
12:30		点鐘				本日はありません。			
		ロータリーソング「四つのテスト」				(今後の予定)			
		ゲスト・ビジターの紹介		石橋春明 会長		10/28 神野会員			
		会長の時間		石橋春明 会長		◆今週のロータリーソング 「四つのテスト」			
		出席報告及び幹事報告		園田哲史 幹事		真実か どうか みんなに 公平か 好意と友情を深めるか みんなのためになるかどうか			
		ロータリー情報		R 情報担当委員		◆今週のお祝い (9 月 30 日)			
		委員会報告		各 委 員 会		●在籍記念日			
		スマイルボックス		会 員 各 自		園田哲史会員 R3 年 10 月 6 日(5 年)			
13:00		全員協議会「地区補助金プロジェクトについて」				●創立記念日			
◆今後の例会予定						奈須敬司会員(株)AICホールディングス H15 年 10 月 8 日			
●10 月 5 日 月曜日		ガバナー公式訪問(大分 1985、OKE と合同) 会場:トキハ会館 4 階 つばきの間 集合時間:12:00(時間厳守でお願いします)				●結婚記念日			
●10 月 7 日		10/5(月)に例会変更				芳崎一郎会員 H1 年 10 月 8 日 佐藤俊治会員 S50 年 10 月 10 日			
●10 月 14 日		定款第 7 条第 1 節に基づき例会取りやめ				●配偶者誕生日			
●10 月 21 日		夜例会 作守ガバナーノミニーの卓話				岩尾隆志会員 瑞枝夫人 10 月 4 日			
●10 月 28 日		全員協議会(地区補助金プロジェクトについて)				●会員誕生日			
●11 月 1 日 日曜日		地区補助金プロジェクト例会				高木昭信会員 10 月 1 日			
●11 月 4 日		11 月 1 日(日)に例会変更				伊東眞知子会員 10 月 19 日			

◆ゲスト・ビジターの紹介（9月16日）

- ゲスト なし
- ビジター なし

◆幹事報告(9月16日) 幹事 園田哲史

・第35回大分市内10RC合同親睦ゴルフ大会のご案内が届いております。

日時:令和8年11月22日(日) 場所:大分カンントリークラブ月形コース 大会参加費:5,000円

※参加費とは別にプレー代は各自現地でお願いします。

表彰懇親会会場は、ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間 19:00～ 参加費は7,500円です。

本日回覧しておりますので、参加ご希望の方は申込書にお名前のご記入をお願いします。

・国際ロータリー第2720地区ロータリーア外年次大会のご案内が届いております。

本日回覧しております。

・本日は出欠回覧が3種類あります。

①野外家族例会 ②10月例会出欠 ③地区補助金プロジェクト

の3種類です。必ず全てご回答お願いいたします。

・来週23日(水)は定款第7条第1節に基づき例会取りやめです。

次回の例会は9/30(水)の通常例会となっております。内容は地区補助金プロジェクトについての全員協議会です。

お間違いのないようご確認お願いいたします。

◆米山奨学会特別寄付 木下光一会員（10万円）

今月で米山奨学会の理事を退任しますので、任期を全うさせていただいた記念に10万円寄付いたします。

◆スマイルボックス(9月16日)

原田隆雄会員（10口）

本日は、弊社 葵会館にて職場例会という貴重な場の機会を頂き、ありがとうございます。

岩田和久会員（2口）

POLISPA選手権、応援ありがとうございました。結果は5位と残念でしたが、また応援をお願いします。

皆さんこんにちは

本日の職場例会は近日オープンの新館住吉斎場の新館で行わせていただくことになりました。まずは今日の職場例会をさせて頂きまず原田会員にはお祝いと感謝を申し上げます。原田会員、新住吉斎場の完成おめでとうございます。そして本日は職場例会の開催ありがとうございます。

本日は「葬祭場の歴史と成り立ち」をテーマに、私たちが故人様を見送る「場所」がどのように変化してきたのかについてお話しいたします。



昭和の中頃まで、日本の葬儀といえば「自宅葬」が当たり前でした。故人様は住み慣れた自宅に安置され、近所の方々(自治会や「葬式組」と呼ばれる地域の共同体)が手分けをして準備を進めていました。

食事の手配から受付、道具の準備、出棺まで、専門業者に頼るのではなく、地域社会全体で遺族を支え、最後のお別れを行っていたのが当時の姿です。

この風景が大きく変わり始めたのは、1960年代後半から1970年代にかけての高度経済成長期です。

地方から都市部への人口流入に伴い「核家族化」が一気に加速しました。同時に、団地やマンションといった集合住宅が急速に普及します。

これにより、都市部を中心に以下のような問題が生じ始めました。

スペースの不足：狭い集合住宅では、親族や会葬者を収容できない。

搬入の困難：エレベーターや階段の構造上、ご遺体や棺の搬出入が難しい。

人間関係の変化：都市化により近所付き合いが希薄になり、従来のような地域総出の手伝いが期待できなくなった。

つまり「自宅で葬儀を行いたくても物理的にできない」という現実的な問題に直面したことが、葬儀専用の施設、すなわち「葬祭場(斎場)」が必要とされる最大のきっかけでした。

1970年代から1980年代に入ると、民間の葬祭企業による専用ホールが全国各地に本格的に普及し始めます。

当初は「広い場所を提供する」ことが主目的でしたが、次第に葬祭場は単なる場所貸しを超えた存在へと進化していきました。冷暖房完備の快適な空間、遺体保全設備、バリアフリー設計、そして何より専門スタッフによる行き届いた進行サポートです。

地域住民が担っていた重労働や裏方の仕切りをプロが代行することで、遺族は周囲に過度な気兼ねをすることなく、故人様との最後の時間を穏やかに過ごせるようになりました。

2000年代以降、葬祭場のあり方はさらに多様化しています。

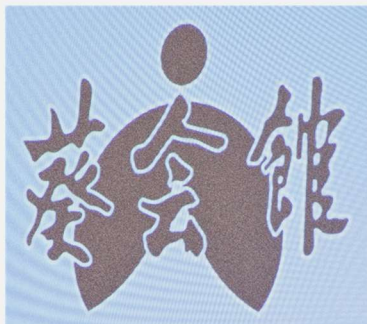
かつては大人数を集める大型ホールが主流でしたが、現在は「家族葬」や「小規模葬」のニーズが高まり、家族だけで温かく見送れるコンパクトなホールが増加しました。また、ご遺族の付き添い宿泊施設が充実したホールや、オンライン参列設備を備えた施設など、時代と家族のカタチに合わせた空間へと変化を続けています。

おわりに

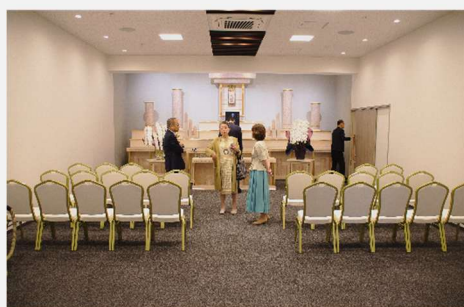
葬祭場の歴史は、日本の住環境、家族構造、そして地域社会の変容そのものを映し出す鏡と言えます。

時代の変化に伴い「自宅から専門施設へ」と場所や形式は変わりましたが、残された者が集い、故人様の人生を称え、心を込めて見送るという本質は、昔も今も変わりません。葬祭場はこれからも、人々の絆を結び、心の整理をつけるための重要な役割を果たし続けていくでしょう。

◆職場例会 葵会館住吉斎場(新館) 原田隆雄会員



時代に合わせた葬祭場のリサイズ



ニーズに合わせた看取りの場



地域との交流、共存

働く人の快適性